

富山を、人々の記憶に残る 場所にしたい。

ゲストハウス「MEBUKI HOUSE (メブキハウス)」の前で

住んでいる街に誇りを持つ。

クロイ 初めて日本を訪れたのは、高校の卒業旅行でした。日本に惹かれて大学で日本語を学び、卒業後に外国語指導助手として来県しました。

内山 父も青年海外協力隊員だったこともあり、いつか自分も海外へと考え、保育士としてエチオピアに2年間赴任しました。クロイとは帰国後しばらくして出会い、国際交流でアメリカ・オレゴン州に行った経験があったので、すぐに意気投合しました。

クロイ ふたりとも起業の夢を持っていたことも、距離を縮めた理由だと思います。

内山 独立を具体的に考え始めたのは、ふたりでアメリカを旅行してからです。忙しい日常から解放されて頭がリセットされ、ゲストハウスの開業を考えるきっかけになりました。

クロイ どこで開業しようか悩んでいた時、井波へ遊びに行ったんです。そこで出会ったみなさんの地元愛がすごくて(笑)。自分の住む街に誇りを持っていることが素敵だなと感じました。

内山 それを自分に置き換えたら…「富山市だ!」と気づいて。お客さんが自由なスタイルで過ごしてもらえる宿を目指し、富山市内でスタートしました。

誰もが元気になる場所。

クロイ ゲストハウスの名前「MEBUKI」は、私が決めました。「芽吹く」という動詞の意味を私たちの新たな始まりに重ね、これから力強く咲こうとする花のように成長していきたいという想いを込めて



内山和也さん
デルゼル・クロイさん

います。お客さんはほぼ海外の方なのですが、大都市の観光で疲れきっていたご家族が、富山に来て「ストレスフリーになった!」「空気おいしい」と元気になって帰る姿を見ると嬉しいです。

内山 ただ、みなさん目的地以外の情報を知らないことが多いので、僕たちならではの視点で富山の楽しみ方を紹介しています。例えば、松川沿いの散歩とか、外国人が喜びそうなレストランとか。地域の人たちが愛着をもって、道の掃除をしたり花壇を手入れしている、そんな何気ない日常の風景こそ日本らしい文化だと思います。

クロイ 富山市はどこへ行くのもアクセスしやすく、その日の気分で山、海、街めぐりなどいろいろ楽しめます。1泊ではなく数泊ゆっくり富山で過ごして、さまざまな魅力を発見してもらいたいですね。

ありのままの日常が富山の宝。

クロイ 近所みなさんにあいさつ回りをした時に「頑張ってください」と歓迎してくださり、とても励みになりました。町内会の行事に参加したり、近所の人々が花を見に来てくれたりと交流もあります。

内山 目指しているのは、地域に根差し、

お客さんにも安心して泊りに来てもらえるゲストハウスです。

クロイ 今年1月、ニューヨーク・タイムズに富山市が「2025年に行くべき52か所」として取り上げられたことで、地名度がぐんと上がったことは事実。外国人観光客が増えるのはこれからかもしれません。だからといって私たちが特別何かをするのではなく、ありのままの富山を見て、感じて、暮らすように滞在してもらえたら、きっとファンになってもらえると思います。「富山はすごく魅力的なところだったね」「あの宿に泊まってよかったね」「また行きたいね」と語り合える、記憶に残る場所になってほしいです。

デルゼル・クロイさん 米国オレゴン州出身。2011年にALT(外国語指導助手)として来県。内山和也(うちやまかずや)さん 富山市出身。2010年より青年海外協力隊としてエチオピアに赴任。2023年11月、富山市内にゲストハウス「MEBUKI HOUSE」を夫婦でオープン。

この連載では、さまざまな方の「アメイジング(驚くほど素敵)」な富山について掲載しています。過去の記事はこちら▶



WEBサイト



富山での楽しみ方などをゲストに紹介

